

苦小牧市医師会
医師
緒方 道輔

慢性疲労症候群

街中での精神科外来の仕事が続いていると、どう理解し、どう対処すればいいのか迷ってしまつ病氣に出合うことが多い。最近になって注目されはじめた慢性疲労症候群もそのひとつである。

「身体がだるくて仕事に行けない」「家事がでぎずついつい横になってしまふ」「いつまでも疲労がとれずあちこちの病院に行

環境づくりを行うことが必要

って検査を受けたが異常がないと言われた」「ひよっとしたら自分は怠け者だろうか」「単なる性格の弱さでしょうか」「うつ病か何かの精神病でしょうか」などの訴えで相談にみえる。

精神科医の立場で診察しても心身症・神経症・うつ病などではない。こんなとき考えてみる必要があるのがこの慢性疲労症候群である。

- ①健康に生活していた人が風邪症状で発症する（微熱・いん頭痛・関節痛・リンパ節腫張）
- ②この風邪症状ががつづいて強いけん怠感が生じ持続する。このためにその人の行動能力が損なわれ、ふつうの社会生活がスムーズにいかなくなる（家事ができない、会社にいけない、自宅で休養がちになってしまつ）
- ③そんなこんなしているうち

に、思考力低下・集中力困難・うつ状態などの精神症状も出現してくる。

この慢性疲労症候群は原因が定かでない（ウイルス感染説が有力）、検査診断基準が難しく（厚生省慢性疲労症候群研究班による診断基準）、また治療法が確立していない、慢性疲労症候群を扱う専門医が少なく、さらにこの病氣は直接生命危機へ結

びつかないといふことで、多くのこの病氣で苦しむ人々が放置されているのが現状と思われる。

この病氣に対する理解を深め、この病氣で悩む人々が生活しやすいような環境づくりを行うことがまず第一に必要なことと思われる。



お問合せは、苦小牧市医師会
電話 33-4720へ